

取扱説明書



動力噴霧機

GS205
GS305

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

はじめに

このたびは、本製品をお買いあげいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は、安全で快適な作業を行っていただくために、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただいて十分理解され、本製品がいつまでもすぐれた性能を発揮出来るようにこの冊子をご活用ください。

お読みになったあと必ず大切に保管し、本製品を末永く使用できますようにご活用ください。なお、より良い製品をご提供するために製品と本書の内容が一部異なる場合がありますのであらかじめご了承ください。

また、安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい安全のポイントを抜粋した「安全作業説明書」を別冊に同梱しておりますので、合わせてご活用ください。

本製品についてお気づきの点がございましたら最寄りの取扱店、または当社の営業所にお問い合わせください。

- 取扱説明書は大切に保管してください。
- 紛失した場合は最寄りの取扱店、または当社の営業所にてお買い求めください。
- 本製品を改造することは、安全で快適な作業に支障をきたすだけでなく、大変危険ですのでおやめください。

■注意事項について

この取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。

-  **危険** …もし警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるもの。
-  **警告** …その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う可能性があるもの。
-  **注意** …その警告に従わなかった場合、けがを負う可能性があるもの。
- 注意** …その警告に従わなかった場合、機械の損傷の可能性のあるもの。

※「注意」 この取扱説明書には、国際単位を表示しております。下記の換算数値を良く読んでご理解の上で使用ください。

| | 量 | 新計量法対応表示 | 換算 | 従来の表示 | 備考 |
|-----|---------|---|--|--|----|
| 換算表 | 面積 | [m ²] (平方メートル) | 10000[m ²] =1[ha]=100[a] =10反歩=3000坪 | [a] (アール) [ha] (ヘクタール) 坪、町歩、反歩 | ※① |
| | 回転速度 | [s ⁻¹] (毎秒) [min ⁻¹] (毎分) | 1 [min ⁻¹] = 1 [rpm] | [rpm] | ※② |
| | 力 | [N] (ニュートン) | 9.8 [N] = 1 [kgf] | [kgf] (重量キログラム) | |
| | 力のモーメント | [N・m] (ニュートンメートル) | 9.8 [N・m] = 1 [kgf・m] | [kgf・m] | |
| | 圧力 | [Pa] (パスカル) [N/m ²] (ニュートン 毎平方メートル) | 0.98 [MPa] = 10 [kgf/cm ²] 9.8 [Pa] = 1 [mmH ₂ O] | [kgf/cm ²] [mmH ₂ O] | |
| | 工率・動力 | [W] (ワット) | 735.5 [W] = 1 [PS] 9.8 [W] = 1 [kgf・m/s] | [PS] [kgf・m/s] | |

※注意事項 ①土地面積については、[a] [ha] を使用することがあります。

②単位時間における回転数については、「回転数」ではなく、「回転速度」と表示します。

機械を他人に貸すとき、運転させるとき

■機械を他人に貸すとき、運転させるとき

事前に運転の仕方を教え、機械に貼ってある⚠(安全注意マーク)印の付いている警告ラベルも一枚ずつ説明してあげてください。親切心が仇にならないように機械と一緒に取扱説明書・安全作業説明書を渡し、よく読んで理解し取扱方法を体得してから作業するように指導してください。

とくに禁止事項については念を入れて説明してください。家族も同じことです。



ポジティブリスト制度について

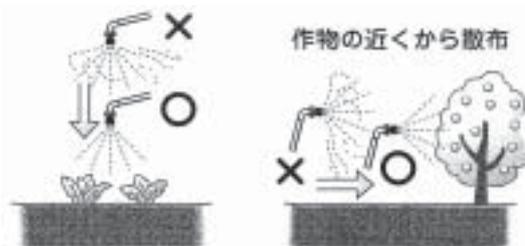
食品衛生法の農薬残留基準にポジティブリスト制度が導入されます。今まで残留基準値が決められていなかった農産物に一律の厳しい基準が設けられます。定められた基準を超えて農薬が残留する食品は販売等が禁止されるため、散布する薬剤が周りのほ場にドリフトしないよう、これまで以上に、ドリフト防止に気をつける必要があります。また、周辺ほ場へのドリフトが問題になるばかりではなく、ドリフトが周辺住民に迷惑をかけることもあります。さらに、湖沼などの水源へ混入すると環境破壊にもつながります。圏外へのドリフトを減らすことは様々な面から求められています。

ポジティブリスト制度とは？

食品衛生法に基づく残留基準値が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の販売等を原則禁止とする制度です。この一定量とは「人の健康を損なうおそれのない量として厚生労働大臣が定める量」として、原則0.01ppmとなっています。(いわゆる一律基準)

※散布しようとする作物以外に農薬がドリフトしないように細心の注意をして散布しましょう！

- 農薬散布時は必ず守りましょう。
 - ①風の弱い時に散布します。
 - ②散布の位置や方向に注意します。
 - ③適正なノズルを使い適正な圧力で散布します。
 - ④適正な量を散布します。
 - ⑤園地の端部では特に注意します。
 - ⑥薬剤タンクやホースをしっかりと洗浄します。



もっと詳しく知りたい方へ

ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策についてのホームページ

- 農林水産省ホームページ「農薬コーナー」 <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>
- 日本植物防疫協会(JPPネット)ホームページ「農薬散布技術情報」
<http://www.jpnpn.ne.jp/jpp/public/sanp.html>
- 全国農業協同組合連合会「アグリインフォ」
<http://www.agri.zennoh.or.jp/hiyaku/positivelist/default.asp>

| | |
|---|----|
| 1.  安全に作業するために | 2 |
| 作業前の注意 | 2 |
| ご使用する時の注意 | 3 |
| セット上の注意 | 4 |
| 原動機の手扱い上の注意 | 6 |
| ご使用後の注意 | 7 |
| 2. 各部のなまえと操作部のはたらき | 8 |
| 各部のなまえ | 8 |
| 標準付属品のご確認／標準付属品／操作部のはたらき／  警告ラベル | 9 |
| 3. 取扱い及び操作のしかた | 10 |
| 準備点検～噴霧 | 10 |
| 準備点検～噴霧～停止 | 12 |
| 4. 清掃・整備・格納について | 13 |
| 動力噴霧機の故障診断と処置 | 15 |
| 消耗部品リスト | 17 |
| 5. サービスについて | 18 |
| アフターサービスについて | 18 |
| 補修部品の供給年限について | 18 |
| 6. 仕様 | 20 |
| 仕様表 | 20 |

1. ⚠️ 安全に作業するために 作業前の注意

こんな人は、散布作業してはいけません

- 過労、病気、薬物の影響、
その他の理由により正常な
散布作業ができない人
- 酒気をおびた人
- 妊娠している人
- 散布作業以外



作業に適した服装をします

身体にあったものを
着用する散布業者

帽子

保護メガネ

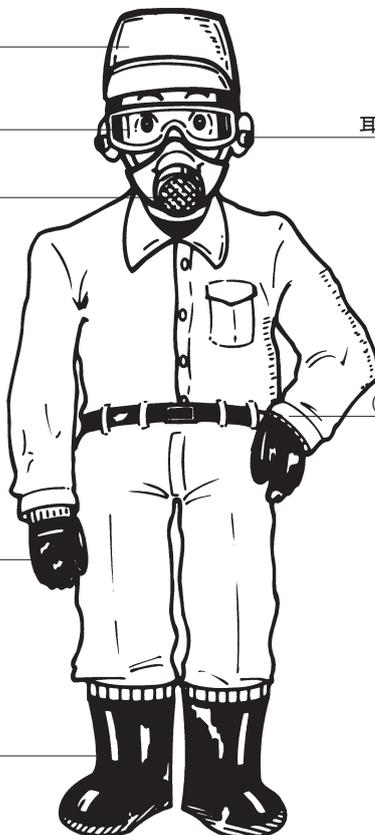
耳栓 (騒音作業)

保護マスク

保護衣
(袖口スッキリ)

保護手袋

作業靴 (長靴)



⚠️ 警告

保護具はつねに正常な機能を有する様、点検・整備を行い、正しく使用して下さい。

ご使用する時の注意

使用用途

- 水田作物、一般畑作物、果樹、桑、樹木の病害虫に対する薬剤散布
- 牧舎、鶏舎及び都市衛生用消毒液、殺虫液の散布
- 液剤肥料の散布
- 一般畑作物・水田作物への散水
- 牧舎、鶏舎及び農作物・農機具の洗浄
- 建築構造物の壁面等の洗浄、送電線の塩害防止

⚠ 注意

強酸・強アルカリ、化学溶剤及び高温水の使用はおやめください。動力噴霧機の破損や事故につながる場合があります。

薬剤について

- 使用する薬剤や肥料のラベルをよく読み、使用方法、使用上の注意をよく知っておきます。
- 使用する薬剤や肥料などはタンク内に残さない様計画防除を行ってください。
(使用薬剤・対象病害虫・使用方法・作業時間等をその日のうちに防除日誌に記録する事をおすすめします。)

⚠ 注意

- 反当散布量や薬剤の種類をまちがえると、薬害をおこします。
- 薬剤、肥料は安全な場所に保管し、運搬するときは、袋が切れないように気をつけます。
- 使用済みの薬剤、肥料の袋は害のないように処理します。
- 薬剤、肥料の取扱いには十分注意し、万一目や口に入ったときは、すぐに水で洗い流します。
体調に異常を感じたら直ちに医師の診断を受けてください。



- 風向きによって散布方法を変え、作業員や住宅等に影響が出ないようにしましょう。
薬剤散布は風上から風下に向かって作業しましょう。また、周辺の他作物、畜舎、養魚池、住宅に漂流飛散させないように配慮しましょう。

⚠ 警告

- 薬剤散布は風上から風下に向かって作業しましょう。風下からの作業では薬剤を浴びることになります。
- 動力噴霧機は重量物です。運搬時には、腰を痛めない様に十分注意してください。
- 火災の恐れがありますので、引火性の強い薬剤は使用しないでください。

！ 警告

- 本製品を原動機とセットする際は最寄りの取扱店にご依頼ください。
- Vプーリ、Vベルトなどで駆動する場合は、回転部分には必ずカバーを取り付け、確認時などでも容易に触れる事が出来ないようにしておきます。
(運転時、確認時、いずれの場合もカバーを付けておいてください。また、カバーの取付けが出来ない場合は作業機の周囲にサクを設けるなどの配慮を必ず行ってください。)
- 点検・調整時には必ず本機「停止」状態で行います。

！ 注意

- 動力噴霧機のセットは仕様の回転速度、圧力、水量の範囲で行います。
仕様の範囲以外で使用した場合、動力噴霧機の破損や事故につながる場合があります。
- 原動機定格出力は、動力噴霧機の所要動力以上あるものを使用します。動力噴霧機の所要動力以下ですと性能を発揮できない場合があります。
- 動力噴霧機のオイルゲージが容易に確認できるようにセットを行ってください。

注意

- 本機固定用のボルトは適正なサイズ、性質のものを使用し、しっかり取付けます。
動力噴霧機や原動機などの設置が不安定な場合、振動が発生し、動力噴霧機に悪い影響を与えます。
- Vプーリ、Vベルトは適正なサイズを選定し、所要動力に適応したものを使用します。
- Vプーリの軸穴やキー溝の寸法は、軸に適応したものを使用します。
ガタのあるVプーリ穴やキー溝は、有害な振動を発生して事故の原因となりますので、使用しないでください。
- 軸端はVプーリの面よりやや凹んでいるようにして、ボルトは座金を介して確実に締め付けます。
必要に応じてVプーリ止めネジを使用します。
- 原動機のVプーリと動力噴霧機のVプーリは一直線に設置します。
上から見てVベルトが真っ直ぐにかかっていないと、Vベルトに無理な力がかかり、Vベルト損傷、はずれの原因になります。
- Vベルトは張りすぎ、緩みすぎないように注意してください。
張りすぎると軸受を傷める原因になります。
緩いと滑り、ベルト損傷、はずれの原因になります。
- 2本以上のVベルトを使用するときは、種類及び周長の同じ物を使用します。
- Vベルトを交換するときは、全数同時に替えます。

配 管

⚠ 危険

- 接続するホース、ノズルのネジ種類、サイズは同一のものを使用し、接続する際は必ずパッキンを確認して確実に接続してください。
ネジのサイズ、種類の不適合、パッキンの紛失や損傷及びネジの緩みにより薬剤を被びます。また、ネジ部の締め込み過ぎによりパッキンがはみ出したり損傷し、薬剤を被びますので、ネジは適正に締め込んでください。
- 薬剤を調合する前に必ず清水にて確認してください。

(吸水)

- 吸込管径はポンプ吸込口径を標準とします。バルブ等で管路が絞られる時は1ランク上の吸込管径を使用します。

注意

吸込管径を必要以上に絞ると性能低下や故障の原因になります。

- 吸込揚程は3m以内にします。

(噴霧)

- 噴霧ホースは使用圧力に対応出来るホースを選定してください。

(ホース)

- 吸水ホース・余水ホースは確実にタンクの中に入れてバンド等でしっかりと固定してください。
- ホースを接続する際、必ずパッキンを確認してください。

⚠ 警告

余水口には、余水ホースのみを接続してください。特にコックやバルブを接続して全閉状態としますと、機械が破損して負傷を被ることがありますので絶対におやめください。

(ノズル)

- ノズルについては余水量30%程度を確保出来る様選定してください。

⚠ 危険

- ポンプ仕様に合わせたノズルを使用しなかったり、標準の装備を取り外したり、ムリな取扱いをした場合、本来の性能が発揮できないばかりか、不具合、場合によっては負傷・損害を被る事がありますので絶対におやめください。

⚠ 注意

- ノズルの噴頭を人に向けないでください。薬剤を浴びます。

モータにセットする場合

警告

電源は200V、400Vの高電圧です。取扱方法を誤ったまま使用しますと、感電・火災の危険があります。

- 運搬時、電動機単体を吊る場合は、電動機のつりボルトを利用してください。但し、セット状態にした後機械全体を吊る場合は、電動機のつりボルトを使用しないでください。
- 屋外で使用する場合は、最寄りの取扱店、または当社営業所にお問い合わせください。

配線時は以下の点に注意してください。

- ・付属器具の配線は、電気設備技術基準、および電力会社の内線規定に従ってください。
- ・配線距離が長くなりますと電圧降下が大きくなります。電圧降下が2%以内になるよう電線の太さを選定してください。
- ・接地端子は電動機の端子箱内、またはフレームにEまたは≡マークで表示してありますので、必ず接地を行ってください。
- ・配線に必要な参考資料を下記に示します。

配線と付属器容量（参考）

| 電 圧 (V) | 電 動 機 出 力 (kW) | 配 線 の 最 小 太 さ | 配 線 の 最 大 亘 長 (m) | 手 元 開 閉 器 容 量 (A) | 手 元 過 電 流 し ゃ 断 器 容 量 (A) (B種ヒューズ) | 超 過 目 盛 電 流 計 (A) | ア ー ス 線 の 最 小 太 さ |
|---------------|-------------------------------|---------------------------------|--|--|--|--|---|
| 200 | 0.2 | 1.6mm | 144 | 15 | 15 | 5 | 1.6mm |
| | 0.4 | 1.6mm | 81 | 15 | 15 | 5 | 1.6mm |
| | 0.75 | 1.6mm | 54 | 15 | 15 | 6 | 1.6mm |
| | 1.5 | 1.6mm | 32 | 15 | 15 | 10 | 1.6mm |
| | 2.2 | 1.6mm | 23 | 20 | 20 | 10 | 1.6mm |
| | 3.7 | 2.0mm | 23 | 30 | 30 | 15 | 2.0mm |
| | 5.5 | 2.6mm | 27 | 60(30) | 50(30) | 30 | 2.6mm |
| | 7.5 | 3.2mm | 31 | 100(30) | 75(50) | 30 | 2.6mm |
| | 11 | 14mm ² | 37 | 100(100) | 100(75) | 60 | 3.2mm |
| | 15 | 22mm ² | 43 | 100(100) | 100(100) | 60 | 14mm ² |
| | 18.5 | 30mm ² | 47 | 200(100) | 150(100) | 100 | 14mm ² |
| | 22 | 38mm ² | 51 | 200(100) | 150(100) | 100 | 14mm ² |
| | 30 | 60mm ² | 62 | 200(200) | 200(150) | 150 | 22mm ² |
| | 37 | 60mm ² | 63 | 200(200) | 200(150) | 200 | 22mm ² |
| 400 | 45 | 100mm ² | 74 | — | — | — | 38mm ² |
| | 55 | 125mm ² | 78 | — | — | — | 38mm ² |
| | 75 | 80mm ² | 148 | — | — | — | 38mm ² |
| | 90 | 100mm ² | 156 | — | — | — | 38mm ² |
| | 110 | 125mm ² | 161 | — | — | — | 38mm ² |
| | 132 | 150mm ² | 162 | — | — | — | 38mm ² |

注意

上記内容を厳守すると共に、モーター単体の取扱説明書を十分お読みください。

注意

エンジン、モーターとのセットは最寄りの取扱店におまかせください。

- (注) 1. 配線の最小太さは金属管配線で配線本数3本の場合です。
 2. 配線の最大亘長は末端までの電圧降下が2%の場合です。
 3. ()内は、スターデルタ始動器使用の場合を示します。
 4. 手元過電流しゃ断器容量は、電源側の仕様を考慮する必要があります。

原動機の手扱上の注意／ご使用後の注意

エンジンにセットする場合

危険

- 燃料は可燃物です。運転の場所に火気は近付けないでください。
- 燃料の補給はエンジンを必ず停止し、冷えてから行います。こぼれた燃料はきれいに拭きとっておきます。
- 燃料の補給や手入れをする時は、タバコなどの火気を近付けないでください。
- 本機に燃料を補給した後、燃料補給タンクを3m以上離してから始動・運転を行ってください。
- 燃料を基準容量以上補給したり、激しい振動を与えたり本機を傾けたりしないでください。

警告

- エンジンの排気ガスは有害です。室内での運転は、しないでください。一酸化炭素中毒になります。エンジンの排気ガスは吸わないように注意してください。

注意

- エンジンは運転中、停止直後は高温です。マフラー・シリンダフィンなどに手を触れると、やけどをします。
- エンジン運転中のスパークプラグには高電圧が通っています。危険ですので、絶対にスパークプラグやプラグコードに触れないでください。

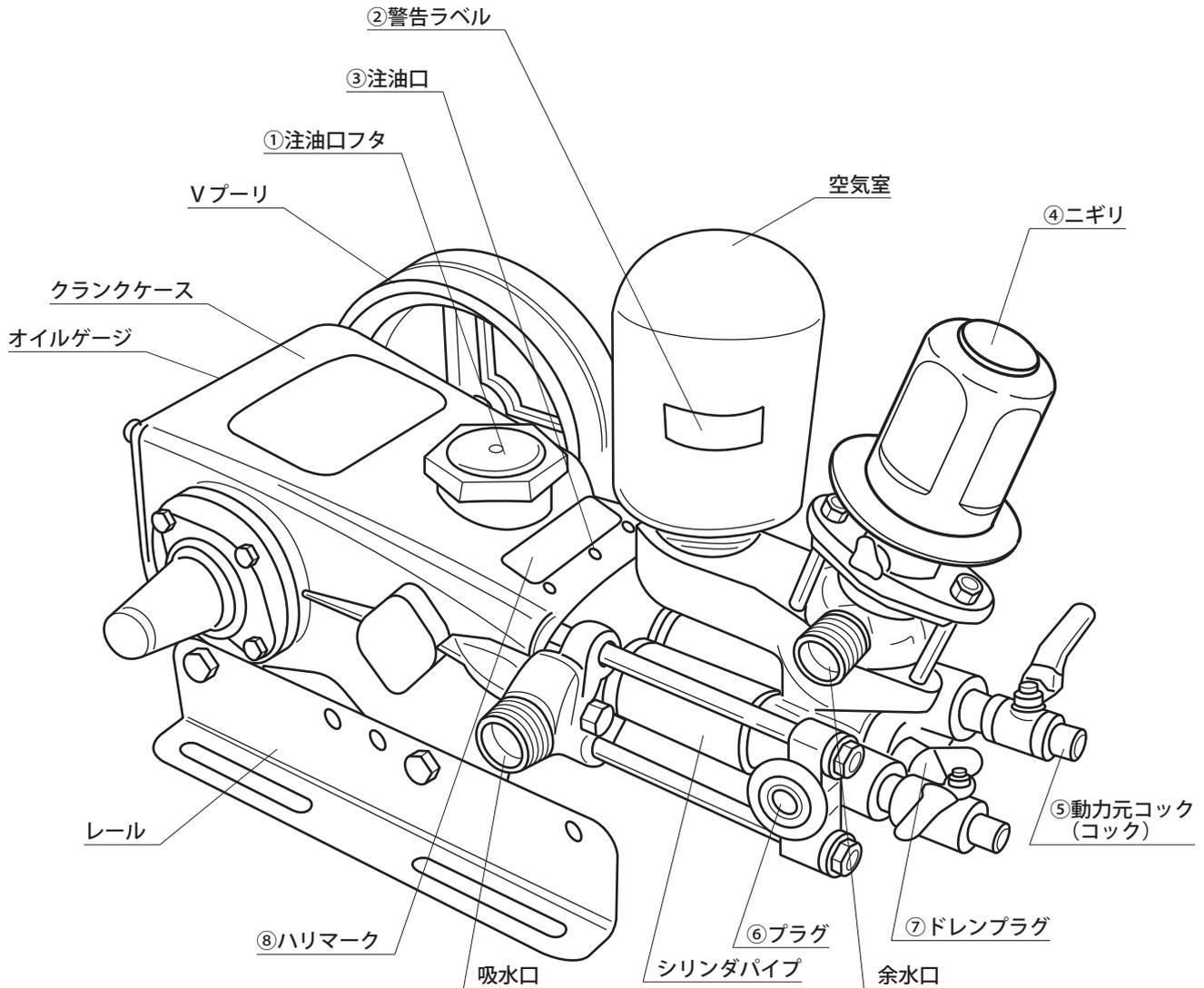
注意

上記内容を厳守すると共に、エンジン単体の取扱説明書を十分にお読みください。

ご使用後の注意

- 作業後に残った薬剤は、密封、密栓し、他人が持ち出せない様厳重に保管してください。
- 作業後、本機は清水にて運転を行い、ポンプ、各配管ホース等の水抜きを行ってください。
(作業後は保護マスク、保護メガネ、保護手袋などの手入れも忘れずに行ってください。)
- 本機や器具を洗浄した際の処理については、薬剤同様被害の起こらぬ様充分注意してください。
- エンジンセットの場合、エンジン内に残っている燃料は全て抜き取ってください。
- 損傷箇所がある場合は、最寄りの取扱店、または当社営業所にて修理を行ってから格納してください。
- 保管は湿気の少ない場所で、チリやゴミが付着しないようにしてください。

各部のなまえ

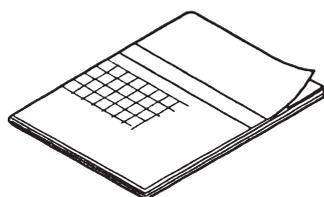


標準付属品のご確認

梱包箱を開けたら、まず付属品がそろっているかどうか、確認してください。万一、付属品が足りない場合や破損していた場合は、すぐにお買い求めの販売店にお申し出ください。

付属品のサイズや数量は20ページの仕様表の中にあります。

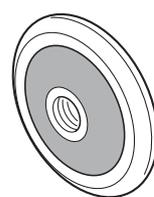
標準付属品



取扱説明書



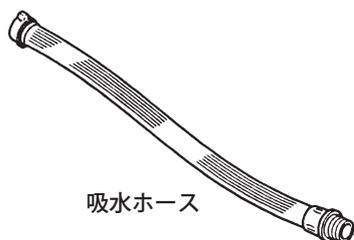
安全作業説明書



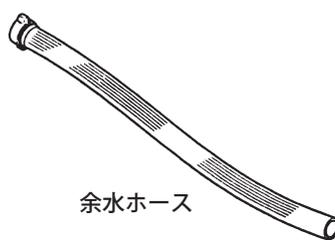
吸水ストレーナ



バンド



吸水ホース



余水ホース



エクステンション

製品の特長

- 薬液は常に一方向に流れているので、吸水機構に無理がない構造になっています。
- ピストンパッキンは特殊ゴムを使用しており、耐薬品性があります。

操作部のはたらき／ 警告ラベル

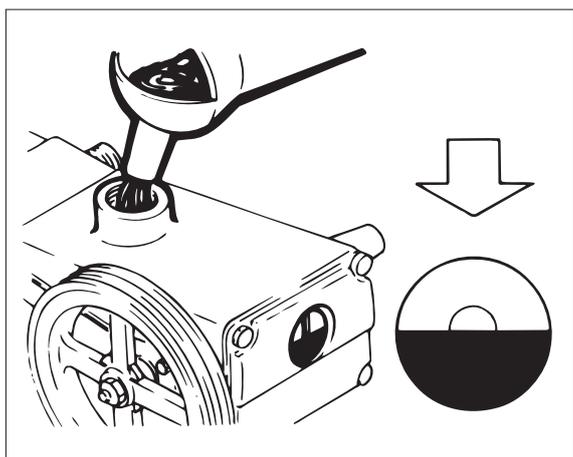
- ①注油口フタ : 運転前にこのフタを開けて必ずガソリンエンジンオイル (SJ級以上 SAE 10W-30相当) を給油してください。容量は20ページの仕様表を参照してください。
- ②警告ラベル
- いつも汚れや泥をとり、表示内容がハッキリと見えるようにしてください。
 - 警告ラベルが損傷したなら、新しい物と交換してください。
 - 警告ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず取外した部品と同じ場所に貼ってください。
- ③注油口 : ガソリンエンジンオイル (SJ級以上 SAE 10W-30相当) を約3~5滴を作動前に注油してください。
- ④ニギリ : 圧力調整用のダイヤルです。
- 時計方向に回すと圧力が上がります。
 - 反時計方向に回すと圧力が下がります。
- ⑤動力元コック : 噴霧ホースを接続するコックです。コック上のレバーを90° 回すと「開」状態となります。
- ⑥プラグ : 灌水として利用する場合このプラグをはずして御使用ください。
- ⑦ドレンプラグ : 水抜きを行う時にはこのプラグをゆるめてください。
ポンプ内の水を抜く事が出来ます。
- ⑧ハリマーク : 製造番号を表示しています。


注意

・運転前に、必ず、取扱説明書を読んでよく理解してから運転すること。
 ・原動機とセットするときはベルトカバーをつけること。

P/N 121074

3. 取扱及び操作のしかた 準備点検～噴霧

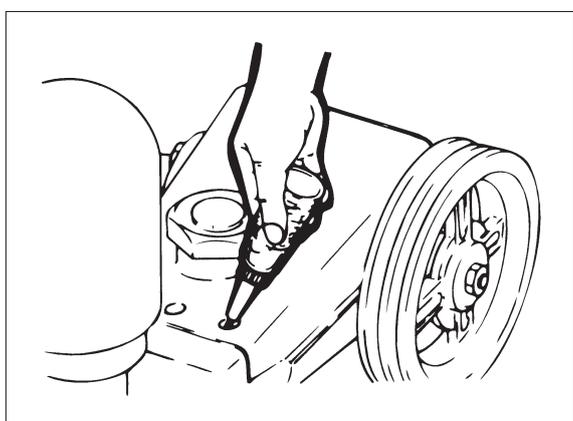


注意

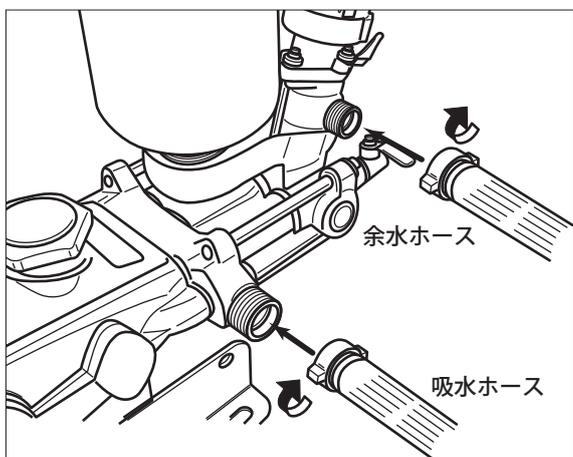
この動力噴霧機にはオイルが入っていません。ご使用前に必ずオイルを入れてください。

- 注油口フタを外し、ガソリンエンジンオイル（SJ級以上 SAE 10W-30相当）を動力噴霧器後部のオイルゲージの中央赤丸部まで入れます。

給油後、注油口フタは確実に取り付けてください。

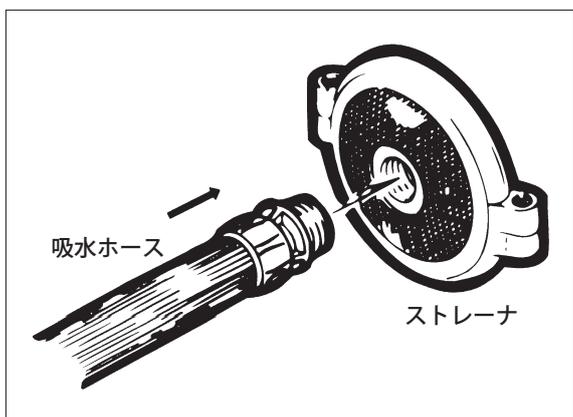


- クランクケース前部の3つ穴（注油口）へガソリンエンジンオイル（SJ級以上 SAE 10W-30相当）を約3～5滴作動前に注油します。



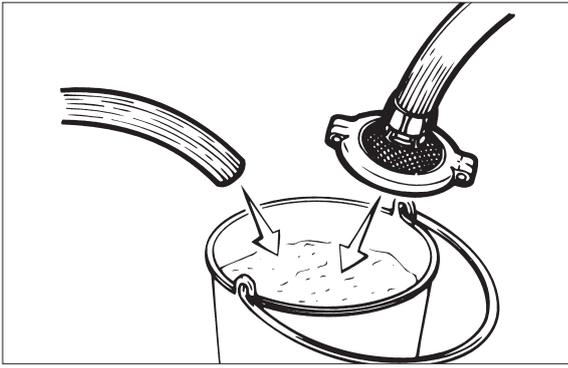
注意

吸水ホース・余水ホースを取り付ける際、パッキンを確認します。特に吸水ホースの場合は本機の振動、吸水不良につながり、ポンプの寿命を縮める事になります。



- ストレーナは標準付属品を取り付けます。（標準付属品以外のものを使用する場合は、最寄りの取扱店、または当社営業所にお問い合わせください。）

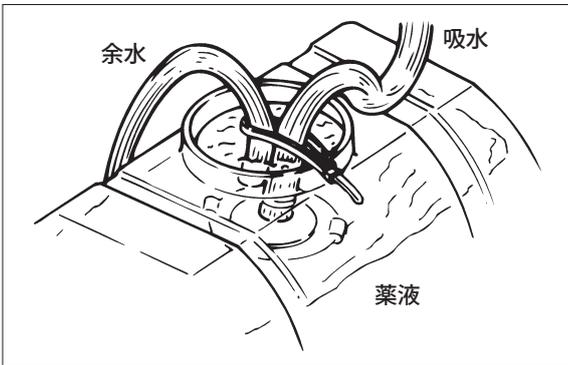
準備点検～噴霧



- 始動時、清水にて試運転を行い、動力噴霧機に異常がない事を確認してください。

! 注意

動力噴霧機に異常がある場合は、ただちに停止して、15、16ページ、動力噴霧機の故障診断と処置を参考にしてください。

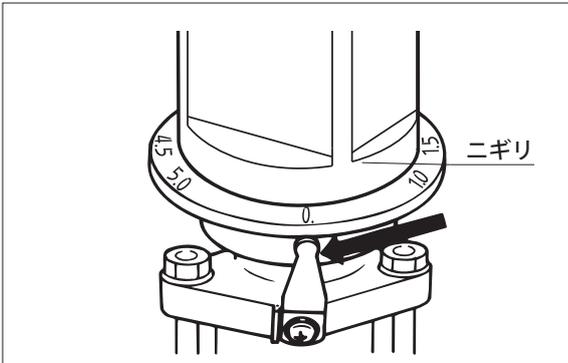


- ホースを薬剤タンクへ入れる際、吸水揚程は3m以内にセッティングしてください。

! 注意

吸水ホース・余水ホースはあばれると危険ですので、付属のバンドで確実に固定します。

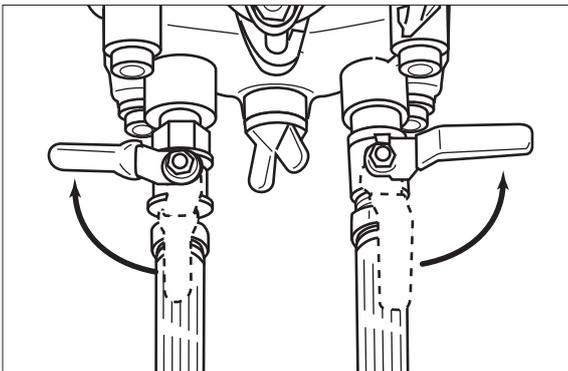
- ストレーナが水源の中に確実に入っている事を確認してください。



- ニギリの目盛りを「0」にもどしてください。

注意

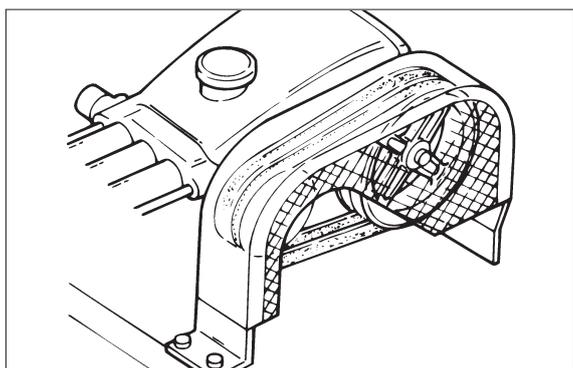
加圧状態で始動運転を行うと、吸水出来ずに空運転によりピストンパッキンをいためる事がありますので、注意してください。



- 動力元コックを閉めてください。

! 注意

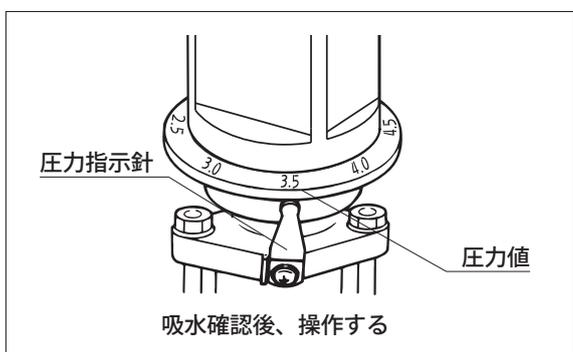
コックを閉じないで吸水を始めると、コック部より突然薬剤が吹き出したりノズルがあばれて危険ですので、必ずコックは閉じてください。



- 始動、運転時には必ずベルトカバーを付けておいてください。

⚠ 警告

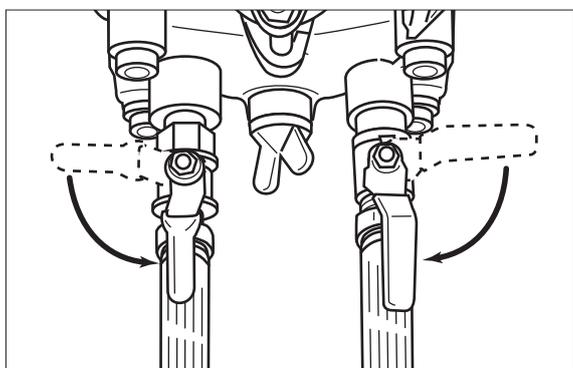
回転部分は、巻き込み事故につながりますので、必ずベルトカバーを装着してください。また、ベルトカバーの取付けが出来ない場合は、作業機の周囲にサクを設けるなどの配慮を必ず行ってください。



- 圧力指示針の位置に使用圧力を合せます。

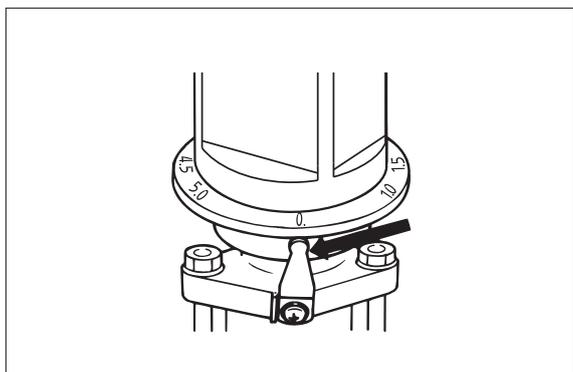
注意

始動後、吸水しない状態（空運転）を一分以上続けるとピストンパッキンを傷めますので、もう一度15～16ページの故障診断と処置を参考にして操作をくり返してください。



⚠ 注意

共同作業を行う場合、圧力を急激に上げると、ノズル保持者に反動が大きくかかり危険ですので、事前に合図をしてからコックを開いてください。

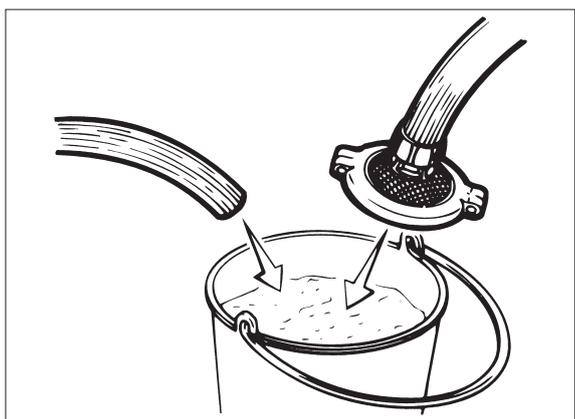


停止

- 動力噴霧機を停止する際には、ニギリを「0」に戻してください。

圧力調整に圧縮バネを使用しています。ホース内に圧力が残っている場合、配管をはずす際に残留液が吹き出す場合があります。

4. 清掃・整備・格納について



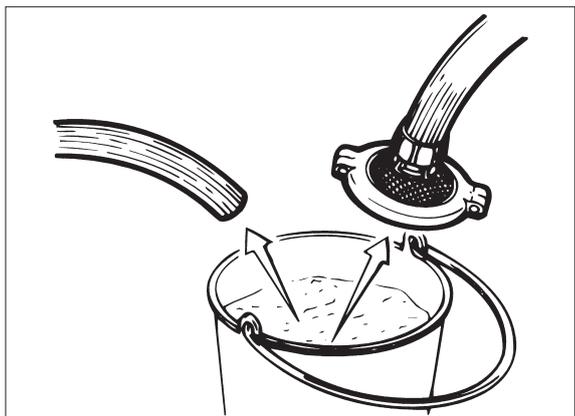
●作業後は、清水を吸水して、ポンプ内に残っている薬液を排出して清掃を行ってください。

次年、ポンプ始動時のトラブルを防ぐ事が出来ます。

注意

本機を洗浄した際の水の処理については薬剤同様薬害の起こらぬ様充分注意してください。

又、薬剤の取扱い方法については、薬剤の取扱説明書及び安全作業説明書を良くお読みください。



●ノズルをホースより外し、吸水ストレーナを水から上げて、コックを開いた状態で本機を低速で運転して水抜きを行います。

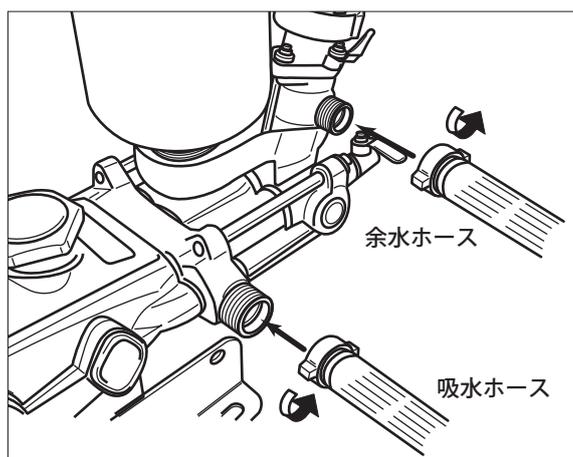
(ニギリは「0」位置とします)

注意

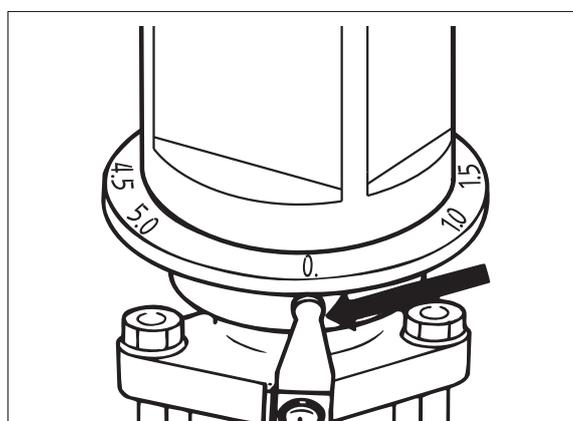
空運転は機械保護の為、一分以内としてください。

⚠ 注意

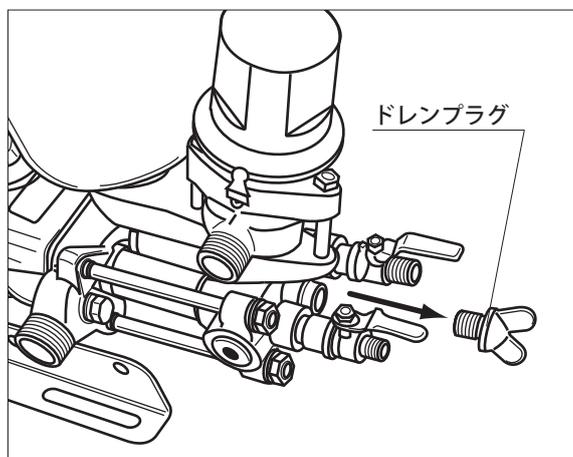
本機の清掃をする時には、高圧洗浄機を使用しないでください。可動部、シール部に水が浸入し、破損や内部の錆びなどの原因になります。



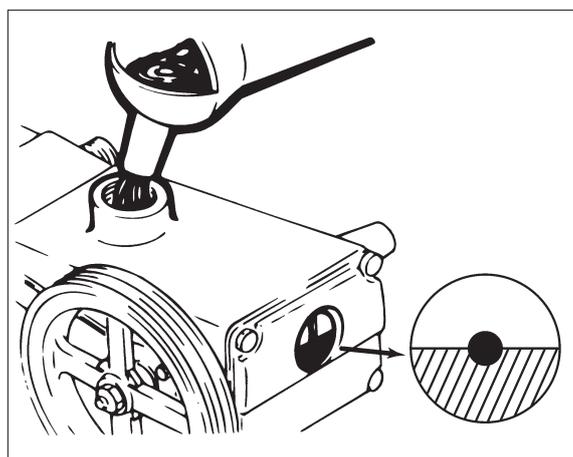
- 吸水ホース、余水ホースを接続したままにしておきますと、パッキンをいため、トラブルの原因となりますので、必ず外して保管してください。



- 圧縮バネに荷重をかけない状態にて保管します。正確な圧力表示を維持する為、ニギりは「0」に戻してください。



- 冬期凍結による破損防止の為、格納期には十分な水抜きを行ってください。具体的な方法は図のドレンプラグをゆるめて、本機内部の水抜きを行い、清掃・整備・格納を行ってください。



⚠ 注意

オイルを抜く際は、オイルが冷えてから行ってください。

- オイル交換を行う場合は、必ず本機が停止している事を確認してから行ってください。

- 初回は50時間後に交換し、2回目以降は100時間毎に交換します。

オイルは劣化しますので、上記の時間に満たない場合でも1年に1度はガソリンエンジンオイル交換（SJ級以上SAE 10W-30相当）を行ってください。

動力噴霧機の故障診断と処置

●「動力噴霧機の故障診断と処置」は日常起こりやすい故障とその処置を示したものです。万一故障が起きた場合は、参照の上適切な処置を行ってください。

原因がわからない場合やお困りの点がございましたら、遠慮なく最寄りの取扱店、または当社営業所へご連絡ください。

1. 機種名
2. 製造番号
3. 故障内容（なにが、どうしたら、どんな状態で、どうなったか）
を詳しくお話してください。

◎につきましては最寄りの取扱店、または当社営業所に調整・修理を依頼してください。

警告

調圧弁のニギリ上部にあるキャップを外し、ネジを調整しないでください。規定圧力以上となり、機械が破損して負傷を被ることがありますので絶対におやめください。

| 状 態 | | 原 因 | 対 策 | |
|--------------------------|---------------------|-----------------|----------|---|
| (1) 吸い込まない か吸い込みにく | 伝導部 | Vベルトのスリップ | 調整・交換 | |
| | 吸水口まで | 吸水ストレーナにゴミ等のつまり | 掃 除 | |
| | | 吸水ホースの損傷・屈折 | 補修・交換 | |
| | | 吸水接続パッキンの異常 | 補修・交換 | |
| | | 接続不良 | 正しく接続 | |
| | | 吸水ホースの長さが長い | 交 換 | |
| | 吸水の揚程が高すぎる | 揚程を低くする | | |
| 吸水・加圧部 (シリンダー部) | 吸水弁・吐出弁にゴミ等のつまり・こう着 | 掃 除 | ◎ | |
| | 吸水弁・吐出弁の組立不良 | 正しく組立 | ◎ | |
| | 吸水弁・吐出弁の傷付・磨耗 | 修正・交換 | ◎ | |
| | 吐出弁バネの破損 | 交 換 | ◎ | |
| | ピストンパッキンの損傷 | 交 換 | ◎ | |
| | Oリングの損傷 | 交 換 | ◎ | |
| | シールパッキンの損傷 | 交 換 | ◎ | |
| 調圧部 | 加圧の状態になっている | ニギリを「O」にもどす | | |
| | 調圧部のこう着 | 洗 浄 | ◎ | |
| (2) 圧力があがらない | 吸水・加圧部 | 吸水量が不足している | (1) 項を診断 | |
| | 調圧部 | 調圧弁弁玉・弁座の損傷 | 交 換 | ◎ |
| | | 調圧弁弁棒の不良 | 調整・交換 | ◎ |
| | | 調圧弁バネ筒の不良 | 補修・交換 | ◎ |
| | | 調圧弁バネの損傷・衰弱 | 交 換 | ◎ |

動力噴霧機の故障診断と処置

| 状 態 | | 原 因 | 対 策 |
|--------------------------------|-------|---|--|
| (3) 吐出コックを 開くと圧力が 下がる | ノズル | ノズルの磨耗 ノズルの噴射量が多すぎる | 交 換 適正ノズルに交換 |
| | 動力噴霧機 | 吸水量が少ない | (1) 項を診断 |
| | ホース | 噴霧ホースが長い 噴霧ホースが細い ホースの接続部分から水モレ | 適正長さにする 適正太さにする 補修・交換 |
| (4) 噴霧ホースの振動 | | 空気室内が水で満たされている 調圧弁の作動が悪い 吸水・加圧系統の不良 (つまり、ゆるみ) ノズルのつまり | 空気を入れる (空運転一分以内) 分解・調整 分解・調整 掃 除 |
| (5) 騒音 | | Vプーリ固定ボルトのゆるみ コンロット等のボルトのゆるみ ベアリングの破損 調圧弁の組立不良 空気の吸込み | 増締・交換 増 締 交 換 調 整 点 検 |
| (6) 液モレ 油モレ | | Oリングの損傷 シールパッキンの損傷 オイルシールの損傷 締付・組立不良 | 交 換 交 換 交 換 分解・調整 |

◎

◎

◎

◎

◎

◎

◎

◎

◎

◎

消耗部品リスト

| 使用箇所 | 部品名称 | 部品番号 |
|-----------|-------------|--------|
| 注油口フタ | Oリング | 14177 |
| クランクケース | フェルトパッキン | 27711 |
| クランクケースフタ | Oリング | 48773 |
| オイルドレンプラグ | Oリング | 23170 |
| オイルシールケース | Oリング | 26536 |
| シリンダ元金具 | シールパッキン | 100015 |
| パイプ受け金具 | Oリング | 15862 |
| | Oリング | 23172 |
| シリンダパイプ | シリンダパイプ | 22929 |
| シリンダパイプ内 | 吸水弁 | 14122 |
| | ピストンパッキンマトメ | 116121 |
| | 吸水弁カラー | 27499 |
| | 吸水弁ストッパ | 119917 |
| | ナイロンナット | 46365 |

| 使用箇所 | 部品名称 | 部品番号 |
|---------|------------|--------|
| シリンダ先金具 | 弁組立 | 120276 |
| ドレンプラグ | Oリング | 23170 |
| 調圧弁 | 調圧弁ベローパッキン | 16972 |
| | 調圧弁ベローズ | 11451 |
| | 調圧弁弁棒 | 16975 |
| | 調圧弁ベンサック | 12256 |
| | 調圧弁弁球 | 107238 |
| | 調圧弁弁座 | 126246 |
| | Oリング | 14179 |
| 吸水ホース | ゴムマルパッキン | 103686 |
| 余水ホース | ゴムマルパッキン | 103685 |

アフターサービスについて

●始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、すぐに適切な整備をしてください。
お買い上げの販売店にご連絡ください。

●連絡していただく内容

- 機種名
- 製造番号
- 故障内容

なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。

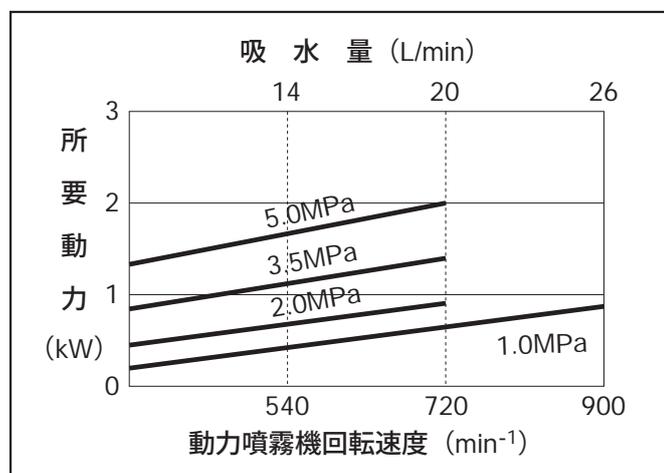
●本製品を安全にご使用頂くには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。年に一度は、お買い上げの販売店に、点検整備をお願いしてください。この時の整備は有料となります。

補修部品の供給年限について

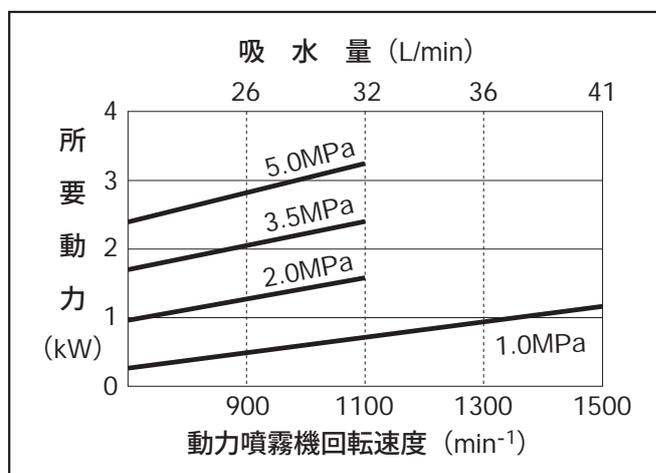
本製品の補修用部品の供給年限は、本製品の製造を打ちきり後9年です。但し、供給年限内であっても、特殊部品については納期等をご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

| 名 称 | | | GS205 | GS305 |
|--------------------|---------------------------|-----|----------------------|-------------|
| 基本寸法 (mm) 長×幅×高 | | | 427×242×283 | 413×242×310 |
| 乾燥質量 (kg) | | | 10 | |
| 性 能 | 吸水量 L/min | 最 高 | 20 | 32 |
| | | 灌 水 | 26 | 41 |
| | 圧力 MPa | 最 高 | 5 | 5 |
| | | 灌 水 | 1 | 1 |
| | 回転速度 min ⁻¹ | 最 高 | 720 | 1100 |
| | | 灌 水 | 900 | 1500 |
| 所要動力 kW | 最 高 | 2.0 | 3.3 | |
| | 灌 水 | 0.8 | 1.3 | |
| 噴霧コック | | | G1/4, G3/8 | |
| 潤滑油種類 | | | SJ級以上 SAE10W-30 | |
| 潤滑油容量 (L) | | | 0.6 | |
| Vプーリ (外形-種類×溝数) | | | 178-A×2 | 152-A×2 |
| 付 属 品 | 取扱説明書 | | 部品番号 126202 | |
| | 安全作業説明書 | | 部品番号 117730 | |
| | 吸水ホース | | 部品番号 105936 (φ19×3m) | |
| | 吸水ストレーナ | | 部品番号 122017 | |
| | 余水ホース | | 部品番号 104344 (φ13×3m) | |
| | バンド | | 部品番号 107107 | |
| | エクステンション | | 部品番号 813343 | |

GS205



GS305



製品につきましては万全を期しておりますが、万一お客様に不都合が生じた場合には、下記のフリーダイヤルへ内容を充分ご確認の上ご連絡ください。

◆お客様相談窓口◆ 〈丸山サポートセンター〉

0120-898-114

ご利用時間 9:00~17:00 (土、日、祝日を除く)



本社／東京都千代田区内神田3-4-15 TEL.03 (3252) 2281 (営・代表) 〒101-0047
〈丸山サポートセンター〉フリーダイヤル 0120-898-114

この取扱説明書の部品番号は126202

P/N. 126202-02 07.03 TAP/M